

【題名】税金の考え方と面

【学校名・学年】恵庭市立柏陽中学校三年

【氏名】田 端 紗 来

私達は人によって考え方や見方、見ている面が違います。

私は税金についての作文がだされたので、お盆に会った親戚に税金についての話を聞きました。その中から中小企業社長の K さんと国家公務員の Y さんの話を紹介します。まず、『税金とは?』という質問に K さんは「クソだね。」と言い、Y さんは「みんなが暮らすために必要。」と言いました。

あまりにも正反対な答えに驚きましたがもう少し話を聞いてみました。K さんは民間からお金を集めるのではなく、国がもっと税金の使い方を考えて削れば良いと言っていました。さらに K さんは国をよくするための話し合いをするべき国会議員は足の引っ張り合いばかりで寝ている人もいます。その人達の給料が税金からでていると思うと腹が立つ。消費税を上げる前にあの人達をどうにかしてほしいと言っていました。一方 Y さんは私達がこうやって暮らせているのは税金のおかげだと言っていました。例えば、学校に無料で行けること、道路や信号機ができること、病院だって七割は税金。税金がなくなったら私達の暮らしは成り立たない、税金はとても大切なものだと言っていました。

二人の税金についての考え方は全く違いました。K さんは否定的で Y さんは肯定的です。同じ税金についてというテーマでもこんなにも考え方が違うのは、二人の見方や考え方、立場が違うからでしょうか。私はそれも少しあると思いますが他に他に理由があると思います。それは税金にも二つの面があることです。K さんが言っていた悪い面と Y さんが言っていた良い面という二つの面が税金にはあって二人は違う面を見ていたのだと思います。なぜなら、K さんは学校や病院についての税金については一言も話していなかったからです。Y さんも国会議員についての税金については一言も話していませんでした。

私は税金に悪い面と良い面があるのなら、悪い面は改善していかなくてはならないと思います。消費税を上げる時に反対意見がでたのは税金の使われ方に納得していない人達がいるからだだと思います。フィンランドなどの国では消費税が二十パーセントぐらいあります。それでもフィンランドの人達が反対しないのはその税金が正しく、国民が納得できる使われ方をしているからだだと思います。

私は税金は国をよくするためのものだと思っています。なので、税金の悪い面は改善していき、良い面はさらに良くなるようにしていけばいいと思います。税金の悪い面が無くなり、国民全員が納得できる使われ方ができれば、日本も税金も私達の暮らしも今よりずっとすばらしいものになると思います。